

知的障害教育における学習評価から授業改善につなげる フレームワークに関する研究（令和4～5年度）

県総合教育センター特別支援教育部

1 研究の概要

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の総則では、学習評価の充実として「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」の必要性が明示されている。

これらを踏まえ、令和4年度から2年計画で、知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研究に取り組み、「枠組み」に沿って目標設定から指導内容の設定、学習評価を行うことができ、授業改善につなげられるツール「知的障害教育課程の授業改善アシスト」（以下、授業改善アシストという。）を開発した。

2 授業改善アシストの内容構成

授業改善アシストは、大きく分けて六つのシートに分かれている。

- ①手順シート：どういった流れで目標の設定から学習評価、授業改善までを行うのかが一目で分かる。
- ②教科等実態把握シート：各教科の実態を、学習指導要領の段階と対応し把握できる。
- ③個別シート：一人一人の単元の目標や評価規準、判断のための基準、評価等を3観点に基づいて記載できる。
- ④集団シート：集団としての目標、評価規準、判断のための基準、評価を3観点に基づいて記載できたり、振り返りが記載できたりする。
- ⑤比較シート：個別シートの内容が転記され、

一人一人の目標等を比較し確認できる。

- ⑥まとめシート：集団シートから実態や目標、評価規準、学習状況の評価等が転記され、次の授業への改善点等が一目で分かる。

本ツールの特徴として、③個別シートと④集団シートを行き来しながら目標の設定から学習評価まで行うことができることが挙げられる。また、単元全体における学習状況の評価や授業者の振り返り、課題・改善を要する点も記載することができ、⑥まとめシートでの課題等を踏まえ、学習評価から授業改善へつなげられるものとなっている。

手立て、指導上の留意点等	評価基準（判断のための基準）	
	教科	3観点での評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。 ・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。 ・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、教師が買い物の手順を口頭で質問しな 	生活	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱いなどを理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができている。 「思考・判断・表現」教師を介して、金銭の大切さや必要性について気付くことができている。 「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分の力で買い物をしようとしている。

図1 ③個別シート（一部掲載）

3 おわりに

授業改善アシストを活用することで、三つの柱に基づいた目標設定、内容等を踏まえた3観点による学習評価により、指導と評価の一体化を図ることができる。また、単元の学習評価につながる記録をとることができ、授業の振り返りや次の授業へのつながり、教職員間で授業改善アシストを共有することで、授業改善を図ることが可能である。

年度末には、県総合教育センターのWebサイトに公開する。併せて、より使いやすくするために「手引」及び「記載例」も掲載する。また、次年度には、当センターの推薦研修で演習を行う等、教員への周知を図っていく。